

ITCを活用したコミュニケーション能力の育成

～全校縦割り班活動におけるピアサポート活動を通して～

キーワード コミュニケーションの育成 ITCの活用

学校名 新潟市立大通小学校

所在地 〒950-1202
新潟県新潟市南区大通南5丁目5426番地

ホームページ
アドレス <http://www.odori.city-niigata.ed.jp/>

1. 研究の背景

大通地域は、段階的に宅地造成が進み、核家族世帯が大半を占めている。また、両親が共働きの家庭が多く、子どもとふれ合う時間が少ない。これらに伴い、生活経験が乏しく社会的スキルが未発達のため、集団内での関係がうまく保てず、良好な人間関係を築くことが難しい児童が多くなってきている。これが、いじめなどの荒れに繋がることもあり、生徒指導体制の充実や自尊感情、自己有用感の育成が課題となっている。

これまでも、ピアサポート活動を学校の教育ビジョンに位置づけ、講師を招聘した研修や、縦割り班活動を全校体制で取り組み、学校全体は落ち着きある状態に至ってきている。今年度は、これまでの活動を継続・発展させ、年間で見通しをもって取り組んでいくとともに、ITCを有効活用したピアサポート活動を取り入れ、コミュニケーション能力を高め、成果を検証していきたいと考えた。

2. 研究の目的

これまで行ってきた全校縦割り班を活用したピアサポート活動において、振り返りの時間を充実させ、コミュニケーション能力（自分の意見を積極的に主張したり、相手の考えを認め励ましたりする力）を高めることで、言語活動を充実させ、自己有用感や人間関係調整能力を育てていくことをねらいとすることとした。

そのための方策として、縦割り班活動の前後で、「マイピアサポートプラン」カードを活用し、ピアサポート活動の計画や振り返りの時間を充実させ、教師の励ましや評価を加えていくことで自己の変容を自覚させ、他を認める気持ちを高めていく。

また、TCタブレット端末を活用し、縦割り班活動でSEL（ソーシャルスキルトレーニング）を活用したり、視覚によるフィードバックを行い、メタ認知を図ったりしながら、お互いを認め合う気持ちを高めていく。そして、高学年児童を中心に、タブレットを用いた説明や言語活動を通して、リーダー性を育成し、コミュニケーション能力溢れる「ピアサポーター」「ファシリテーター」を育成することを研究の目的とする。

〈研究内容〉

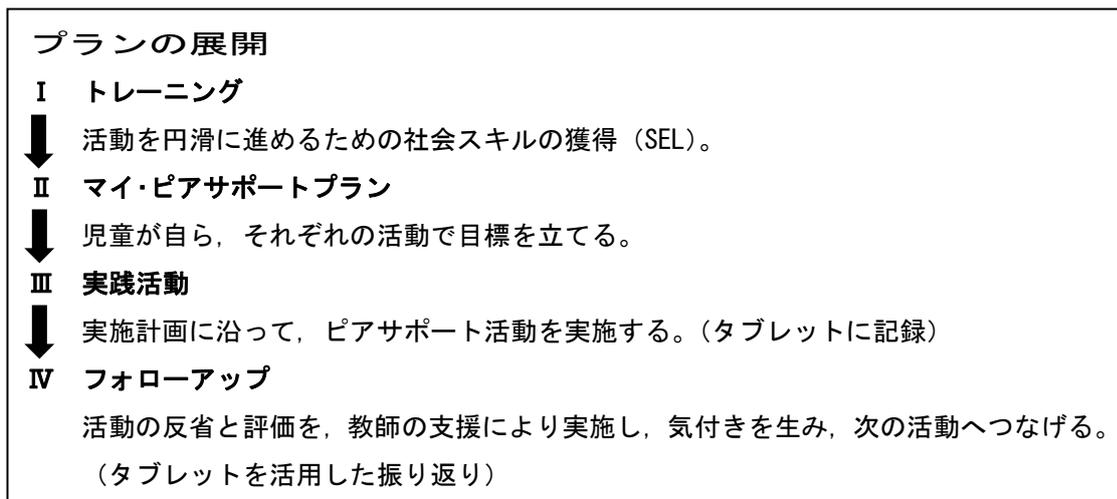
- (1) 年間の縦割り班活動における、目標と振り返りの時間の確保による自己の変容を探る。

- ① 年間の行事に合わせた縦割り班におけるピアサポートを設定し、見通しをもって活動に取り組ませる。
- ② 「マイピアサポートプラン」のカードを活用し、活動前のめあてと、活動後の振り返りを充実させ、教師の励ましと評価を加えることで、自己の変容を自覚させる。
- ③ 高学年児童のリーダーを中心とした振り返りの時間を設けることで、コミュニケーション能力の向上を図る。

(2) タブレット端末を活用し、活動の記録や振り返る

- ① 活動の場면을写真や動画で記録し、その時の気持ちを振り返る
 - ・場面の振り返りを行い、言語能力・表現力を育成する。
 - ・自分の行動を客観的に捉える経験を積む。
 - ・高学年児童のファシリテーション能力を高める。
- ② 情報を活用し、縦割り班の関係づくり（縦割り班遊び・グループワーク）に役立てる。

〈ピアサポート活動の展開〉



3. 研究の経過

時期	ピアサポート活動	職員研修等
4月		◇校内ピアサポート委員会による全体計画・年間計画の作成
5月	全校ピアサポート活動① 【運動会を成功させよう】 ・縦割り班で協力し、開閉開式を行ったり、縦割り班競技を行ったりする。	・校内ピアサポート研修 ・全校ピアサポート活動①の評価
6月		◇タブレットPCの購入（7台） ・タブレット活用研修（1）

7月		
9月	全校ピアサポート活動② 【仲よしウォーキング】 ・縦割り班で協力し、目的地まで遠足を行う。	・全校ピアサポート活動③の評価 ・タブレット活用研修（2） ・ピアサポートアセスメント研修 講師：新潟市教育相談センター 指導主事 遠藤美紀様より
10月		
11月	全校ピアサポート活動③ 【なかよし清掃班をつくろう】 ・縦割り清掃班の活動を充実させる	・全校ピアサポート活動③の評価
12月		
1月	全校ピアサポート活動④ 【大縄跳びで団結】	・全校ピアサポート活動④の評価 ・タイプ別サポートプランの実践
2月	全校ピアサポート活動⑤ 【6年生を送る会で感謝を伝えよう】	・全校ピアサポート活動⑤の評価 ・職員研修で成果の検証 ・6年生を送る会や学習参観日で、学びの成果を発信

4. 代表的な実践

(1) 全校ピアサポート活動②【仲よしウォーキング（縦割り遠足）】

① マイピアサポートプランの作成

清掃開始時間の15分前に集まり、縦割り班ごとにマイピアサポートプランを作成した。

5年2組15番

名前 イ

マイピアサポートプラン

①(行事名)
～大空なかよしウォーキング～

①私の考えたサポート

- ・みんなが歩くときに、声をかけてサポートする。
- ・辺りふとときにみんなが楽しめるように、みんなをまとめる。

②そのサポートを考えた理由

- ・みんながつかれたときにいうと、ほげまされると思ったから。
- ・楽しく辺りを歩きたいと思ったから。

③活動をする時に、心配なことは？

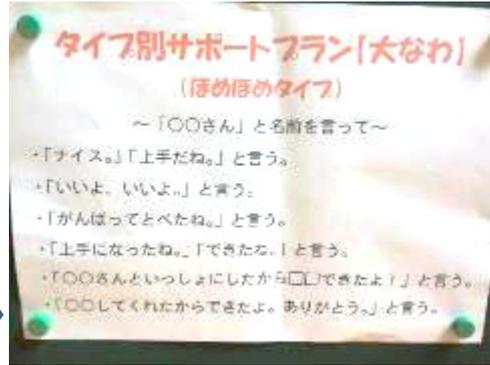
- ・サポートする言葉がわからない時。
- ・どうしてもけんかしたら。



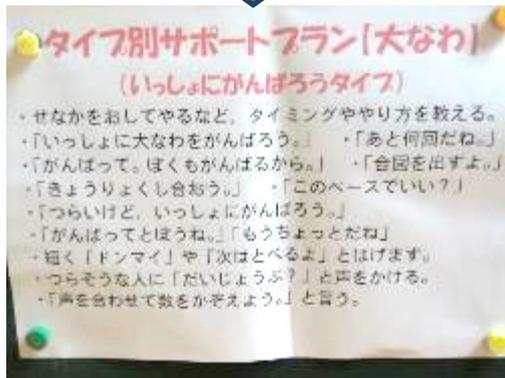
班で、活動を円滑にするためのソーシャルスキルトレーニング（SEL）を実施した後で、ウォーキングのめあてを作成した。高学年のリードでそれぞれが発表し、全体で確認した。



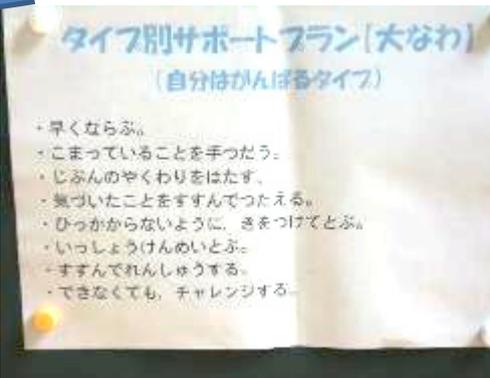
タイプ別サポートプラン



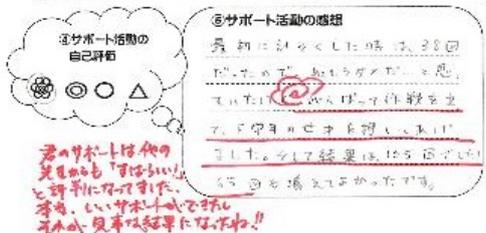
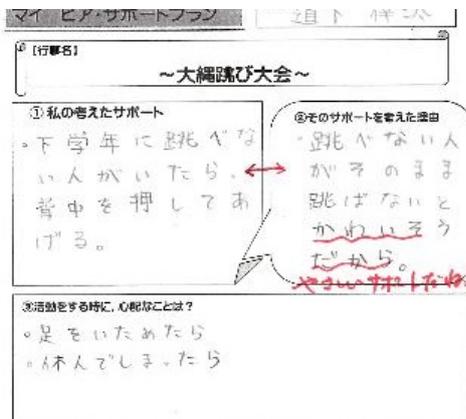
ほめほめタイプ



いっしょにがんばろうタイプ



自分はがんばるタイプ



縦割り班で大縄跳びにチャレンジし、記録の伸びを競い合う活動である。

大縄跳びの練習の様子を記録し、これを班で確認しながら、協力してもっと跳ぶ回数を増やすにはどうしたらよいかを話し合った。また、「タイプ別サポートプラン」による声掛けの例示や、高学年が中心となって、タブレットによるファシリテーションを行うことで、班の中の対話が広がり、コミュニケーションを高めることができた。

5. 研究の成果

〈年度末のアンケート（学校評価）の結果から抜粋（ピアサポート活動にかかわって）〉

児童の意識	達成度(A 評価)
相手を思いやって行動している	88%
縦割り班やクラスの友達と協力して活動している	89%
友達のよいところがわかる	92%
自分のよいところがわかる	83%

年度末の全校アンケートでは、「お互いのよさに気付くことができた」と自己評価ができた児童の割合が多かった。このことから、縦割り班を中心としたピアサポートにより、相手のよさを見付けたり、励ましたりしてきたことや、相手から思いやりの言葉やサポートをもらってきたことが仲間を肯定的に受け入れることに有効に働いたと考えられる。また、お互いのかかわり合いやコミュニケーションを高めるために行ってきた「マイピアサポートプラン」による自己評価や、タブレットを活用した振り返りも有効な働き掛けであったと考える。

さらに、「タイプ別サポートプラン」により、「このようなときに、自分のタイプで相手にどんな言葉掛けを行うか」を例示したことで、サポートを行う言葉の幅が広がり、コミュニケーションを深めることに成果が現れた。

6. 今後の課題・展望

自己評価から、「自分のよいところがわかる」と答えた児童の割合が他の項目と比べると低かった。マイピアサポートプランのカードを活用し、教師の励ましを加えることで自己肯定感を高めたいと考えていたが、さらに一工夫が必要である。

次年度は、活動の前後で、自分の心にどのような変化があったかを自覚させる手立てを工夫し、自分の成長やよさを自覚させるために研究を深めていきたい。また、目標達成の評価方法をさらに検討し、研究の意義がさらに高まるよう努力していく。

7. おわりに

縦割り班活動の振り返りにおいて、活動中も動画や写真を簡単に記録でき、そのまま班の小グループで確認できるタブレットは児童にとっても扱いやすい情報機器であった。今後も、本校におけるピアサポート活動をさらに充実させていくために、ITCの有効活用を模索していきたい。

